

平成29年度 千歳市立勇舞中学校 自己評価・学校関係者評価評価書及び報告書

校長名	浅田 眞
作成日	平成30年2月28日

1 学校の教育目標

開校の理念(校訓)	きらやかに しなやかに
学校教育目標	<p>瞳をきらめかせ 希望に満ちた未来を拓く</p> <ul style="list-style-type: none"> ●思いやりの心と豊かな人間性をはぐくむ (人間力) ●高い志と確かな学力をはぐくむ (知力) ●たくましい身体と実現する能力をはぐくむ (実践力)

2 学校の経営方針

<p>生きる力をはぐくみ、潤いと活力に満ちた学校の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新しい教育の具現化をめざす学校 ●生徒一人一人がきらめき、信じ合う心が溢れる学校 ●保護者や地域に開かれ、信頼される学校 ●内発的改善力を持ち、支持的な職員風土と協働による学校 ●情熱ある人間性に支えられ、教育的力量を高め合う学校
--

3 重点目標(7つの重点)

<p>年度の重点 『生徒の主体性・自主性をはぐくむ学びと指導』</p> <ol style="list-style-type: none"> 信頼と調和のある学校づくりの推進 「信頼と調和」「協働と実践力」 生徒の自己実現を図る教育の推進 「生きる力」「自己実現」 基礎・基本の確実な習得と、自ら考え判断し、表現する力をはぐくむ教育の推進 「確かな学力」「自己教育力」 豊かな心と健やかな体を培い、社会性をはぐくむ教育の推進 「豊かな心」「健やかな身体」 共生を基盤とした豊かな人間性をはぐくむ教育の推進 「自立と共生」 時代を見通し、新たな可能性をはぐくむ教育の推進 「今日的な教育課題」 家庭・地域と連携し、地域とともに歩む教育の推進 「開かれた学校」「特色ある学校」 	学校関係者評価の結果	
	目標設定の適切さ	本年度の重点目標についての意見等
	A	豊かな心と確かな学力は両輪の関係であり、適切と考える。

4 学校評価の方法

<ol style="list-style-type: none"> 自己評価の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価特別委員会の設置 ・教職員による自己評価(7月・12月) ・生徒による授業評価(7月・12月) ・保護者によるアンケート実施(12月) ・学校評価会議(12月) ・学校だよりによる保護者アンケートの集約結果公表(2月学校だより・HPに掲載) 学校関係者評価の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者評価委員会の設置(6月) ・評価実施(2月) ・評価結果公表(3月学校だより、PTA総会等を活用) 新年度会議(2・3月) 	学校関係者評価の結果	
	評価方法の適切さ	学校評価の方法についての意見等
	A	自己評価の客観性を高めるための具体的な方法であると考えます。

5 自己評価・学校関係者評価の結果と改善の方策

●評価基準(自己評価) A:十分に達成された(4.0～3.3) B:概ね達成された(3.2～2.8) C:やや不十分である(2.7～2.0) D:不十分である(2.0以下)

●評価基準(関係者評価) A:十分に達成された B:概ね達成された C:やや不十分である D:不十分である

NO	自己評価の結果				学校関係者評価の結果	
	評価項目		達成状況	取組の適切さ	自己評価結果の適切さ	自己評価項目、取組の適切さ、自己評価の結果に基づく改善の方策等についての意見等
	大項目	小項目				
1	学校経営	(1)全教職員の主体的な参画による機能的な学校運営の充実 (5)生徒一人一人のよさを生かす学年・学級経営の充実 (21)地域社会から信頼される学校づくりの充実 (23)校内外の環境整備や適正な事務経理の執行の充実	A 3.5 (3.5)	A	A	●教師の業務の多忙さにより、本来の教育の目標が達成されないのではないか。働き方改革の必要がある。
		自己評価に基づく改善の方策 ・教職員のお互いの良さを生かし、補い合える協働体制の確立を図る ・学校からの情報発信の充実～学校・学年・学級だよりの発行・見やすいHPの作成 ・PTA活動などを通して保護者との連携を図る ・地域活動や地域行事への参加の推進			改善の方策を進める上での工夫 ●校務分掌の一部見直しと、業務の精選(部活動)、人事異動も考慮した上での適材適所の人材配置 ●報告・連絡・相談の徹底と運営委員会におけるより対話しやすい雰囲気醸成 ●PTA活動を通じた保護者との連携の継続 ●学校評議員や民生委員を活用した地域連携	
2	研修活動	(2)実践的指導力の向上を図り、授業改善に結びつく研修の充実	A 3.3 (3.4)	A	A	
		自己評価に基づく改善の方策 ・学校研究主題に基づいて日常的に教員各自が授業改善に努める ・校内授業研究に向けた取組 ・ICTの積極的な活用と検証に努める			改善の方策を進める上での工夫 ●授業の単位時間における課題設定、振り返りを全教科でより意識化 ●ICTの利活用における指導的立場の教員の育成(OJTの視点から) ●一人一授業の公開による教員の授業力向上の取組の充実	
3	教育課程	(4)生きる力をはぐくむ教育課程の編成・実施と評価・改善	A 3.3 (3.3)	A	A	●生徒会が企画した「給食交流」のように、生徒自らの主体的な取組は大変よい。やってみて気づくこともある。気づきを大切に次の実践につなげてほしい。
		自己評価に基づく改善の方策 ・生徒の健やかな成長をめざした教育課程の編成・実施 ・本校の地域性を生かした特色ある教育活動 ・各種行事や各教科の指導内容、指導方法をはじめ総合的な学習の時間の改善・充実			改善の方策を進める上での工夫 ●教科における基準時数を上回る十分な余時数の確保 ●特別活動の内容の見直しによる他領域の時数確保と特別活動自体の質の向上 ●総合的な学習の時間における系統性を見直し	
4	学習指導	(7)確かな学力向上をめざし、創意工夫ある学習指導の充実 (8)主体的に学ぶ態度をはぐくむ指導の充実	B 3.2 (3.3)	B	A	●保護者が子どもの学習や生活に対してもっと積極的に声かけをすることが必要ではないか。学習習慣の確立に向けては、意欲を高めることができるよう一層の働きかけが必要であろう。
		自己評価に基づく改善の方策 ・ICTの活用を含め、教師の授業力向上と授業改善への取り組み ・生徒による授業評価を取り入れ授業力の向上に努める ・放課後学習会や長期休業中の学習会の開催など補充的学習サポートの充実 ・学習支援員による少人数指導や特別支援員・日本語ボランティア・学生ボランティアを生かした基礎・基本の確実な定着 ・家庭と連携し、家庭学習の習慣化を図り、学習量などの質的な向上をめざす			改善の方策を進める上での工夫 ●授業の単位時間における課題設定、振り返りを全教科でより意識化 ●授業の単位時間において、思考・判断・表現の場の設定 ●授業における振り返りの場面を生かした家庭学習の指導 ●長期休業中、昼休み等を活用した補充的な学習 ●各種便りや懇談等を活用した望ましい生活習慣や家庭学習の習慣化の啓発	

5	道徳教育	(10)豊かな体験活動をいかし、指導の重点を明確にした道徳教育の充実 (14)自他を大切にし、互いに認め支え合う人間尊重教育の充実	A 3.3 (3.2)	A	A	
		自己評価に基づく改善の方策 ・「豊かな心」の育成に向け、生徒会を中心にボランティア活動の活発化 ・落ち着いた学校生活の維持(ノーチャイム等の継続) ・道徳の授業をはじめとし、教育活動全体の中で心をはぐくむ指導 ・人権教室の実施など体験的な学習を通して実践的にはぐくむ ・学年道徳の整備	改善の方策を進める上での工夫 ●道徳教育推進教師を活用した道徳の時間の指導についての情報共有 ●道徳教育別葉の実効性の向上 ●外部人材を活用した道徳授業の実践 ●道徳の授業実践と公開 ●いじめ防止基本方針の見直しとその共有			
6	特別活動	(11)望ましい集団生活を通し、自主的・実践的な態度をはぐくむ特別活動の充実	A 3.4 (3.5)	A	A	
		自己評価に基づく改善の方策 ・生徒会活動の活性化を図り、生徒の手による自治的な活動の充実 ・生徒会を中心にリサイクル活動を活発化を図る ・生徒に見通しをもった計画や活動を行わせ、自主的・実践的な力をつけさせる	改善の方策を進める上での工夫 ●生徒会活動・学級活動において、教科同様、思考・判断・表現の場面を意図的に設定 ●学活の単位時間の質の向上 ●学校行事における生徒個々の意思決定場面の工夫			
7	総合的な学習の時間	(9)自主的・実践的な態度をはぐくむ体験的な学習の充実	B 3.2 (3.2)	B	A	
		自己評価に基づく改善の方策 ・3年間を見通した系統的な旅行的行事となるよう改善を図る ・学年の特性を考慮した特色ある教育活動の推進	改善の方策を進める上での工夫 ●ICTの利活用における全体計画の策定とその実施 ●キャリア教育の視点を生かした系統性ある年間指導計画の策定と実践			
8	生徒指導	(12)生徒指導の機能を生かし、自己指導能力を高める生徒指導の充実	A 3.5 (3.3)	A	A	●いじめ問題については、悪ふざけから命に関わる案件をよく目にする。教師の目や行動が重要である。
		自己評価に基づく改善の方策 ・日常的な会話などを通して子どもたちに寄り添った指導の推進と落ち着いた生活の定着と維持 ・年4回の「いじめアンケート」の実施、教育相談(二者懇談10月、三者懇談12月)の効果的活用 ・全職員による生徒指導に係る情報の共有を推進して生徒理解の深化を図る	改善の方策を進める上での工夫 ●生徒会活動・学級活動における思考・判断・表現場面の設定 ●特別活動における意思決定場面の設定と教員の適切な助言 ●生活規律・学習規律の徹底に向けた指導の継続 ●「いじめアンケート」、懇談等の教育相談活動の充実と研修 ●スクールカウンセラー、SSWとの連携による相談活動の充実			

9	健康・安全 教育	(3) 生徒・教職員の生命と学校財産を守る危機管理の徹底 (13) 生命の尊重を基盤とし、社会に貢献できる健康・安全教育の充実	A 3.3 (3.4)	A	A	●信号機設置やスクールゾーン指定など、児童生徒の安全対策については、今後も学校と地域がさらに力を合わせて取組を進めていきましょう。
		自己評価に基づく改善の方策 ・関係機関と連携した学校安全教育(交通安全・防災訓練・防犯教室等) ・防災教育等の見直しを含めた充実・改善を図る	改善の方策を進める上での工夫 ●他領域との関連を図る学校安全教育の展開 ●年間指導計画における指導内容の配列の工夫 ●計画的な防災教育の実践			
10	特別支援 教育	(15) 生徒個々の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実	A 3.3 (3.2)	A	A	●特別支援教育については、今後も子ども一人一人の特徴を見極めながら取組を進めていきたい。
		自己評価に基づく改善の方策 ・コーディネーターを中心に支援員を含めた支援体制を明確にし、校内支援委員会を定期的開催 ・情報交流や個別の支援計画を作成し、支援方法を確認し個別指導の充実を図る ・特別支援教育に関する研修を充実させ、教職員の指導体制の確立を図る	改善の方策を進める上での工夫 ●通常の学級における特別な配慮を要する生徒に関する定期的な情報共有 ●支援対象生徒の個別の指導計画の作成と実施 ●校内研修における特別支援教育に関する研修の実施			
11	キャリア 教育	(6) 自己実現を図ることができる計画的・継続的な進路指導の充実	B 3.1 (3.0)	A	A	
		自己評価に基づく改善の方策 ・3か年を見通した進路指導の推進 ・3年間の系統性を考慮した実践的なキャリア教育の全体計画の作成と検証	改善の方策を進める上での工夫 ●全体計画の検証とその共有 ●汎用的能力、キャリアプランニング能力、人間関係形成力など育てるべき力についての共通理解 ●チームによる進路指導体制の確立			
12	ふるさと 教育	(20) 家庭・地域との連携を深める教育の充実 (21) 地域社会から信頼される学校づくりの充実(小中連携教育充実) (22) 歴史と伝統を重んじた生徒の誇りと自覚の充実	A 3.5 (3.4)	A	A	●小中が一校ずつでよいと思っていたが、大規模校同士の両校が何かを共有して一緒に進んでいくのか楽しみである。学習や道徳、規律など、小中の教師と一緒に研究して一貫した取組にしていくことが必要である。
		自己評価に基づく改善の方策 ・新設校と新興住宅地との望ましい関わりについての検討 ・学校公開日の設定と地域へのお知らせの充実 ・部活動見学や授業参観等、小中連携の充実を図る ・家庭学習の習慣化や教育課程の編成、教科指導の接続などに向けた小中の情報交流を図る	改善の方策を進める上での工夫 ●既存の小中連携の見直し(長期休業を活用した部活動見学、教育課程の交流等) ●PTA活動を利用した小学校との連携の継続 ●小中連携・一貫教育の充実に向けた計画的な取組の推進			

13	今日の教育課題	(16) 情報を活用し、生き方や社会を豊かにする力をはぐくむ指導の充実(情報教育) (17) 国内外で活躍する意欲と創造力をはぐくむ教育の充実(国際理解教育) (18) 豊かな自然を守り環境について考え行動する態度をはぐくむ指導の充実(環境教育) (19) 豊かな感性や思考・表現力をはぐくむ文化活動の充実	A 3.4 (3.3)	A	A	
		自己評価に基づく改善の方策 <ul style="list-style-type: none"> ・朝読書により、引き続き授業にも落ち着いて取り組む体制の維持・向上 ・校内の読書環境(図書室の整備、蔵書の管理など)の整備を進め、図書室のPTAへの開放の継続 ・朝読書を継続し、語彙力や表現力を高め、豊かな心の伸長に努める ・学校花壇の花の育成活動の充実 	改善の方策を進める上での工夫 <ul style="list-style-type: none"> ●校内研修等における新たな教育課題についての情報の共有 ●朝読書の継続と学校司書を活用した読書活動の推進 ●節電の啓発、花壇整備の継続など日常活動の確実な実施 			

6 今後の方向性についての校長所見

開校して6年間積み上げてきた成果をもとに、学校や生徒、保護者、地域の実態を踏まえ、全教職員の協働のもと、さらに教育活動を充実させ、生徒の可能性の伸長に取り組まなくてはならない。学校評価(自己評価の中間評価、生徒アンケート)や学校職員人事評価シートに係る教職員面談を通して、明らかになってきた課題である「生徒の主体性・自主性をはぐくむ学びと指導」を年度の重点とし、全教職員で取り組んできた。この重点は次期学習指導要領においても継承され、はぐくむべき「生きる力」の根底を支える要素の一つであると考えている。これまでの成果である「学習規律の確立」、「あいさつの響く学校」、「わかる授業の構築」、「いじめのない学校づくり」などに引き続き取り組むとともに、生徒が自ら考え、表現し、行動する学習機会の構築や教職員による日常的な声かけを行っていきたいと考える。また、特別支援教育研修会やハイパーQU研修会も継続し、困り感を持つ生徒への配慮や望ましい学級経営の構築に一層取り組んでいきたいと考える。次年度においても、「基礎・基本の確実な習得と自ら考え、判断し、表現する力をはぐくむ教育の推進」、「豊かな心と健やかな体を培い、社会性をはぐくむ教育の推進」を方針の重点に据え、教育活動を推進していこうと考えている。